

植物防疫情報第6号

令和2年8月11日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

ブドウさび病の防除を徹底してください

県病害虫防除所が8月5日に行った巡回調査では、ブドウさび病の発生圃場率は60.0%と平年(11.7%)より高くなっています。

広島地方气象台による向こう1ヵ月の予報(8月6日発表)によると、晴天日が多いとされており、今後も発病を助長する気象条件が継続すると予想されます。現在、発病が見られる圃場の発生程度は低いものの、多発した場合には、早期落葉を招く恐れがありますので、圃場をよく観察し、予防的な薬剤散布に努めてください。

(防除上の参考事項)

- (1) 本病は、ブドウの罹病落葉上で越冬した冬胞子が翌春発芽して、中間宿主のアワブキなどに感染して寄生し、6～7月にさび胞子を形成しそれが第一次伝染源となりブドウに感染する。それ以降は、ブドウ発病葉の病斑上で夏胞子が形成され、風などによって飛散して二次伝染を繰り返す。
- (2) 本病は、7～9月に降雨が少なく、乾燥気味であると多発生しやすくなる。
- (3) 発病後の薬剤散布では防除効果が劣るため、予防散布に努め、無機銅剤(ボルドー液など)を十分な薬液量で葉裏にムラなく散布を行う。
- (4) 伝染源量を下げると、ブドウの罹病落葉は圃場外に持ち出して処分し、可能であれば中間宿主のアワブキを伐採する。



図1 ブドウさび病の症状(葉表)



図2 ブドウさび病の症状(葉裏)

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、各農薬ラベルの注意書きやドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。また、**収穫期の薬剤散布は果房の汚れ・果粉溶脱が生じる恐れがあるため、袋掛けを行っていない圃場では散布を避け、発病の程度によっては収穫後に散布する。なお、収穫後の農薬使用は、次作（令和3年作）での回数のカウントとなりますので注意してください。**

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

